

採用試験

採用試験には、筆記試験、適性検査、面接試験などがあります。なかには履歴書やエントリーシートによる書類選考を実施する企業もあり、筆記試験や面接試験までたどりつけない場合もあります。また、筆記試験や適性検査の対策は就職活動が本格化する3月より前に行いましょう。



筆記試験・適性検査

筆記試験は、一般常識、作文、小論文、適性検査など多岐にわたりますが、一般的には下記の内容となります。

1. 一般常識

国語、数学、理科、社会などの基礎学力の問題から時事問題などといった幅広い分野で出題され、基礎学力や社会への関心度をチェックされます(特に時事問題)。

2. 作文・小論文

作文・小論文は表現力、論理性、創造力などをみるための試験であり、文章表現から個人を評価しようというものです。常日頃から文章を書く訓練をし、出題テーマに沿った、わかりやすい文章を書く必要があります。最近出題されたテーマは次のようなものがあります。

- 学生時代に学んだこと
- 国際社会における日本
- 私の信条
- 企業の社会的責任
- 入社後にやりたいこと
- 10年後の自分

3. 適性検査

性格や能力などを検査し、職務への適性を判断するために実施されています。実施率の高い順に「SPI」やSHL社のテスト(「玉手箱」、「CAB」、「GAB」等)のほか、「SCOA」や「TG-WEB」、「YG(矢田部ギルフォード検査)」、「クレペリン検査」などがあります。受検方式も、企業で受けるペーパーテストのほか、自宅受検の「webテスト」、会場受検の「テストセンター」があります。

ワンポイント
アドバイス

1. 常に時計をそばに置いておく

適性検査の中には、問題数が多く制限時間内にきばきと問題をこなさなければならないものもあります。常に時計をかたわらにおいて、制限時間内に問題を解く癖をつけましょう。

2. 志望企業の適性検査に関する情報収集を

適性検査の中で最も課される確率が高いのはSPIですが、ほかの適性検査を導入している企業も少なくありません。志望企業に関する情報を集め、その情報に従って勉強の方針を立てるといいでしょう。ただし、公表している企業は少ないので、昨年の受験者にヒアリングしてみましょう。ほかの適性検査対策も行っておくことを勧めます。